

川

柳

愛 子

(鶴沼川柳同好会)

猪が畑たがやす過疎の村
身をうねり大樹の梢涼を生む
霧囲気でわかるふりするカタカナ語
レンズ来て満面の笑み彼岸花
日本を潰すつもりね岸田さん

赤 堀 晶 子

(六会川柳会)

満月もいいが春なら朧月
温泉がそろそろ皆で来いと言う
シミやシワ消せたら美人もつと増え
八十路坂欲はかかずに登り初め
三世代暮せば苦楽倍加する

雨 宮 則 子

(湘南台川柳会)

草茂る実家に通うこどもたち
画面より紙面が好きならドライアイ
玄関にちさい靴たち遊んでる
カフェの椅子女の喋り絶え間なし
小松菜の青の頂点ゆで上手

石 川 正 明

(湘南台川柳会)

帰省時に土産に勝る孫の顔
テキパキと帰り支度の金曜日
家よりも会社でデカイ背中見せ
傷が付き汗が染み込むランドセル
マスク顔心の合図読み切れぬ

井上 朗

小野 敬子

(六会川柳会)

成しとげて希望をつかんだ若いとき

彼岸花あちらで咲かすもう一度

甲子園快音立てる球児たち

通知来たルンルンしちゃう合格だ

出てくるはあれそればかり老年だ

(六会川柳会)

トイレから戻りまごつくツアーバス

欲ないと言われ今さら欲しがれず

軒下の風鈴だけが鳴る空家

若作りしても歩くと歳がばれ

いないないばあしても笑ってくれぬ孫

岡本 昌代

川端 史郎

(湘南台川柳会)

背を伸ばせ空から母の叱り声

キヤラ弁はドカ弁となり反抗期

かみ合わぬ会話聴いてるイヤリング

外交のカード出し合う舞台裏

歯の抜けた母の笑顔にさす夕日

(鶴沼川柳同好会)

コピリ付く晩夏の恋の薄なさけ

寂しさは去り行く君の靴の音

フリーとは雁字搦めの不自由さ

冷やかに唇燃ゆる恋の嘘

虎の仔の隠れ家忘れ大慌て

菊地政勝

日下部 いくお

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

防犯も兼ねコンジニの灯が温い
脱ぎ方に個性が見える靴五足
宴会が赤い気焔に押され気味
女房とときめきもなく待ち合わせ
甘党のくせに晩酌欠かせない

奥の手を読みつ読まれつ五十年
束の間の幸せ置いて孫帰る
ほんのりと酔わせたいのに妻酒豪
退院日帰り支度の軽やかさ
晩酌を終えて職務の皿洗う

今日 一

熊田松雄

(川柳こぶしの会)

(湘南台川柳会)

留守番はセコムに任せヨーロッパ
物忘れしたことにさえ気が付かず
少しでも痩せて見せよと黒い服
健康は歳なりですと医者が言い
大阪じや二つ買ったら値が変わる

やな予感あるかも知れぬ長寿税
大臣の重い椅子から軽い口
一族が揃えば同じ丸い顔
里の飯母の想いがてんこ盛り
好奇心老いを楽しむ鍵となる

久美子

坂本万里

(湘南台川柳会)

「ガン」という病名「ポン」と呼んでみる

塾をやめ家庭教師はお兄ちゃん

イスラエル非難されない摩訶不思議

五十代話題は介護更年期

休職しやつとなれたわいい母に

ケイ

島津富弥

(六会川柳会)

松茸の姿は見えぬお吸いもの

遠距離の彼とスマホで月見酒

儲け話誘い断り詐欺のがれ

マスクとり笑顔の君は誰だっけ

悲しみは波打ち際の砂に書く

駅毎に違う楽しさ発車ベル

まるで菓子糖度が高い今の芋

気晴らしといつちゃネットでお買い物

刻んでもやはり残すかピーマンは

素養ない身には退屈能歌舞伎

(湘南台川柳会)

教室に未来を託す顔がある

風評に振り回される深い傷

独裁者明日の姿に気付かない

優しさが判る笑顔の無言劇

聞く恥を宝に変えて日々生きる

尚 風

(川柳こぶしの会)

財布から諭吉連れ出すガス電気
断捨離は暇な時ねと二年経ち
欲の果て熱吐く星の最終話
戦の影びたりと付いて離れない
国債務次の世代へ先送る

菅 沼 雅 彦

雨降つて地固まらず大災害
増えるのはしわか薬かどつちかな
歳いくとお出かけ先はクリニック
色も香も好きな花の漢字書けず
AIもコロナの行方読み切れず

菅 野 とよ子

(湘南台川柳会)

衰えし音に振り向き目を見る
愛でて食べ想い出迄も柿の実は
一節の刹那じーんと鼻の奥
すみません聞こえにくさを行く先で
ざわめきと音に釣られてポン菓子を

鈴 木 明 美

(鶴沼川柳同好会)

親子から女同士になる会話
つかの間の秋を楽しむ忙しさ
ケーキよりあんこが好きな世代です
大佛も世界の言葉聞き慣れる
行き過ぎに気をつけながら医者通い

妹尾安子

田中邦彦

(六会川柳会・鶴沼川柳同好会)

コロナより収まりそうもない戦
近くても国交の無い冷めた仲
穏やかな顔に安堵の見舞客
似合つてもなるべく着たくない喪服
機械より偶には妻のマッサージ

時々がいつもになった皿洗い
間を空けてベンチに座る初デート
一車線もみじマークに抜き去られ
実るほど頭の高い人も居る
にわか雨ところどころはここだった

竹花敏夫

月村克子

(湘南台川柳会)

(鶴沼川柳同好会)

天井を知らぬ暑さと物価高
喜寿を過ぎ義理人情を捨てて生き
一強に多弱野党の競い合い
現金は値切るカードは遣い過ぎ
句会後の反省会に酒がいる

月の夜半彼と一緒に罪と罰
ときめいた美人コンテに書類落ち
首を切るどこまで切るのランコエ
肌寒いいよよ到来酒の季
楽しみは後でと先にひとつ風呂

戸澤 千鶴

(湘南台川柳会)

後任に譲った椅子に残る自負
飲み放題二日前から胃を補強
過疎の村議員はずっと同じ顔
正論を述べた途端に左遷され
放蕩の息子も戻る母危篤

長嶋 富士子

(湘南台川柳会)

老い進む夫に寄り添い杖となる
愚痴の鍵閉めたつもりで直ぐ開いて
北満の盛り土の下友眠る
自慢の歯二十四本持ち卒寿
ありがとう五字で相手に幸届け

長屋 比佐子

(湘南台川柳会)

あと二分エスカレーター駆け上がる
お受験は親はコーチでサポーター
起床から出勤までの分刻み
我幸の陰に夫を推した母
扉開け一歩踏み出す再就職

西村 雅子

(六会川柳会)

防空壕居酒屋になり命知る
おわら節胡弓の音色酔いしれる
日本海まばらのとまやみえてくる
風の盆踊るうなじの涼やかさ
湯治場で胸のもやもや消えてゆく

はじめ

ひるかっ

(鶴沼川柳同好会)

暑さ越え熱さまでにもなつた夏

本棚に残る青春捨てきれず

景気よい話に毘を仕込む詐欺

パパとママどっちが好きにおもちゃ指し

AIに書いてもらったラブレター

一癖を個性と呼んで自信つけ

店員に助けてもらおうセルフレジ

老眼になつて若気がよく見える

あるはずの固有名詞が消えた脳

返納にラストドライブ俺ひとり

幡多 純

深野 いく生

(湘南台川柳会)

(なぎさ川柳会)

フーフィーこれに耐えれば母になる

ご時勢か嫁へ姑気を配る

余命一年どっこい越えて二十年

夫呼ぶ声より甘く猫を呼ぶ

口喧嘩和解の鍵を握る妻

真横から伸びた手掴む特価品

市民参加男性まばら伏し目勝ち

レンタルのビデオに負けた映画館

敏腕の税理士雇う富裕層

年金の顔で埋まったバスツアー

古木光江

前田みゆき

(鶴沼川柳同好会)

(六会川柳会)

捨てきれず連れて引つ越し粗大ごみ

景気から対象外の人になり

地域猫どこのお庭もフリーパス

言い訳に出来なくなつたコロナ明け

別腹にスイーツ入る二段腹

長い夜本を開けば舟を漕ぐ

大声で怒鳴つた後でご飯まだ

ちらと見る今は高値の大衆魚

瀬戸際で決める一手は勝負駒

衣替え難しくなるタイミンク

紅花娘

松江文

(六会川柳会)

(湘南台川柳会)

雨の量調整したいなAIで

道を掃く小気味よい音竹箒

猛暑越え秋を待つたよ鯛雲

種を蒔く雑草生えて発芽なし

フルーツの収穫間近嵐来る

新車来た車庫から出さぬ雨予報

国造りやつと気付いた子ども庁

姉の背を見て思い出す老いた母

空高く散歩も少し遠くまで

腹減つたオレ成長期えばる声

水城茂子

(六会川柳会)

いくつかの峠を越えて年重ね
景気良くないのに物価だけ上がり
やんわりと諭す母だが飛ばす檄
手拍子に飛び入りしたい踊りの輪
トネルを抜けて明るい希望の灯

村田憲治

酷暑後の秋通り過ぎ雪だより
このホーム墓地と仏具が付いています
PayPayで払う二途の渡し賃
経営者墓地もホームも同じ人
お賽銭 PayPay 払う世の流れ

村田和彦

(湘南台川柳会)

断捨離で豊顔出すマイルーム
仲人が上手に入れる惚れ葉
沢庵を二回楽しむ耳と舌
意思疎通アレコレソレの老夫婦
前例を守り事故なく天下り

守田貴美子

散る花の命惜しむか花筏
夫には妬かれたことのない平和
青空に言えぬ言葉を書いてみる
やりたくない事はどんな後回し
たまになら独りもいいね寒椿

(六会川柳会)

柳澤 いそ江

(鶴沼川柳同好会)

手は泳ぎ足はもつれて阿波踊り
たおやかに顔は見せない風の盆
腕白の何を褒めよう親の前
褒められて人違いだと言い出せず
夢の中海越え拉致の娘を捜す

やまぐち 珠美

(湘南台川柳会)

対峙する椅子北向きと南向き
煮ごごりになつてしまった志
べそをかきながら全速力の筆
雷鳴へ誰もが少年と少女
枯れていく旨味を聴くか凍み豆腐

吉田 節子

(六会川柳会)

リボンだけそれでもうれし七五三
汗ぬぐいそろそろ咲こう彼岸花
しとしとと風情ある雨今どこに
ダムの底古い建物こんにちは
平和だけ唱えて核に囲まれる

吉野 健司

(湘南台川柳会)

探し物見つからなくてする掃除
字の上手さ金釘流のお墨付き
干支意識するは年末年始だけ
ブラごみの量に反省する暮らし
ぶつかった相手しだいで決まるケガ

禮
風

(川柳こぶしの会)

伸び盛り世界記録も通過点

戦争に学ばず歴史だけ残る

介護の手借りて八十路を謳歌する

AIの進化人間不要論

諭吉さん財布の中に居る安堵

渡
辺
次
郎

(湘南台川柳会)

お隣の夫婦げんかにラジオ消す

負けは負け次を信じてがんばるぞ

今に見ろ君より出世カバン持ち

断捨離もかみ合いません老い二人

コンビニで読みきりました週刊誌

第三十六回 ふじさわ川柳大会記録

日 時 二〇二三年 十月一日(日)

主 催 ふじさわ川柳大会実行委員会

共 催 (公財)藤沢市みらい創造財団

後 援 藤沢市・藤沢市教育委員会

会 場 藤沢市民会館 第一展示集会ホール

参加者数 九十二名

宿題 「やんわり」 上原 稔 選

五 客

やんわりの祖母の道理があたたかい 和子(加藤)

ご期待に沿えませんがと来た通知 壱郎

独裁の耳にやんわり美辞麗句 富弥

やんわりと処理水の名で海へ出る 闘苦朗

柔らかく言われて重い荷を背負う 公男

三 才

人

やわらかい口調で斬られ負う深手 健司

地

それとなく妻に離婚を切り出され せいじ

天 (市長賞)

顔みれば良い施設よと勧める子 秀夫

軸

やんわりといけず言わはる京おんな

宿 題 「やんわり」 上原 稔 選

「まばら」 水野 壱郎 選

「景気」 内田 閑磔 選

「フリー」 加藤ゆみ子 選

特別課題 「越す」 島津 富弥 選

表 彰 市長賞 宿題の天の句 四句

宿題 「まばら」 水野 耆郎 選

宿題 「景気」 内田 閑磔 選

五 客

五 客

フルムーンまばらな記憶縫い合わせ 洋子

円安はいいの悪いのどっちなの 愛子

遺産分けまばらになつて行く家族 龍助

景気良くポイントまくが元は税 敬子

盆過ぎて魔法がとけた過疎の町 ゆみ子

好況を体験せずに老いてゆく 遊希

店員はまばらロボット忙しない 象堂

野良しごと景気良くても悪くても よしき

序の口の土俵に真の好角家 健司

安売りの品で満杯冷蔵庫 鹿声

三 才

三 才

人

人

あるはずの固有名詞が消えた脳 はじめ

また値上げオレも卵を産みたいよ 芳雄

地

地

落丁を埋め合う老いのひとつ屋根 鹿声

ニッポンに半値シールが貼つてある 珠美

天 (市長賞)

天 (市長賞)

戦争と平和まばらな世界地図 敏夫

火葬場とハローワークは混んでいる 浩

軸

軸

運動会どこか寂しい子がまばら

我がモチ期バブル景気のように消え

宿題 「フリー」 加藤 ゆみ子 選

特別課題 「越す」 島津 富弥 選

五 客

五 客

ひまわりの自由言いがかりで奪う 天 晴

マスク越し匂の香りも忘れそう 卓 郎

束縛を解かれて知った身の孤独 近 下

国境を越えたむこうにある自由 敬 子

無料ではないのおかわり自由なの 弘 美

余命一年どっこい越えて二十年 純

マリオネットなんか嫌よと離縁状 象 堂

望まない医療白寿も越えさせる 眞 子

未来へとフリーハンドの描く老後 安 沙

惚け方が実年齢をヒョイと越え 孝 子

三 才

三 才

人

人

繁栄の底を支えているフリー 富 弥

僕たちの愛は言葉の壁を越え 薫

地

地

ユニークな人だ鑄型に嵌らない 昭 子

点滴がとれて鼓動のリズミカル 鹿 声

天 (市長賞)

天

平飼いを夢見て卵生むケージ ゆかり

半分は知らない唄で除夜の鐘 富 夫

軸

軸

無骨でもフリーハンドの円が好き

卒寿越え十年日記買う意欲